

もっと知りたい ふるさと

43

肝煎市兵衛と新堤池

四十八曲峠の中腹に「新堤池」という溜池があります。堤は溜池を意味する方言で、新堤は「新しく造った溜池」ということになります。

新堤池を造ったのが、新山村の肝煎である市兵衛です。肝煎とは後に名主と呼ばれ、現在の村長のような役目をする人です。

新山村は平坦部が少なく、山地を開拓し水田化することに生活基盤がありました。新山村は千曲川から遠くにあるため、その水田用水は明確な記録はありませんが、永正11年(1514)に造られた足跡池という溜池から引いたものと考えられます。



桜を映す新堤池

宝永4年(1707)11月

に富士山が噴火します。この年の9月には群発地震や千曲川の洪水が、また、前年の3年から4年にかけて日照りと旱魃が続くなど、噴火の前兆現象かとも思われる異常気象が見られました。

この時の旱魃で足跡池の水が涸れたのか定かではありませんが、市兵衛はどんな日照りでも水が涸れることがない新たな水源を求めます。山地に水田を有する新山村にとって、溜池の枯渇は死活問題です。

新堤池造成工事についての松代藩の記録は残っていないので確かなことはわかりませんが、ただ一つ市兵衛の残した「新山村堤御普請御人足目録」という記録があります。

実に松代藩内67の村から7840名もの人々が動員されており、千曲市内からも16村、2481名が新山村に集っています。信州新町や大岡、信田などの山間部から約2000人が、犀川北岸の善光寺平中央部である東和田や西尾張部などからも来ています。

記録によれば、工事は

正徳元年(1711)の8月に行われ、「同17日迄」という付け書きや24日には目録を奉行所へ提出しているところから、工事は20日頃までには終了していたと考えられ、これは短期間で終わらせ人海戦術だと思われれます。

藩から経費が出ていれば、藩によつて動員命令が下っているでしょうが、正徳元年は大日照りでその炎天下に命令や賃金という理由だけで、30日も離れた村の溜池工事のために懸命に働くでしょうか。

各村々を巡って必死に訴える市兵衛のひたむきな姿が、同じ山間部の人々や水害に苦しむ善光寺平の人々の心を動かしたのでしよう。私たちも県内の災害を目の当たりにすれば、何とか力になりたいと切に願うものです。市兵衛の真摯な姿勢に、人々は松代藩領民としての連帯感に火を点けられ命令や義務、金銭以上の何かを、見たのではないでしょう。そして、炎天下に汗を流すだけの価値を市兵衛



市兵衛を祀ったお宮

に見出したの
だと思
います。
八頭山
東麓の
窪地に

8000人も力が結集し、完成した新窪地には15000立方の水がたたえられたといえます。正徳3年(1713)には600人の人々により堤が補強されており、この池がいかに大切なものがわかります。

新堤池には小さなお宮が建っています。これは共に働いた新山村の人々が、市兵衛に感謝して、伊勢の大神宮からお宮分けをしていただいたものだと言っています。

市兵衛と8000人が渾身の力を込めた新堤池は現在でも立派に役目を果たし、お宮には今もしめ縄が飾られており市兵衛の心は現在も新山に生きています。

新堤池は観光名所でもなく、看板や説明文もありません。しかし、新堤池は上山田のみならず千曲市にあつても、第一級の名所旧跡であります。

上山田 西澤嘉範